

イヤイヤ期は親としても成長期

「何を言ってもイヤイヤ。子どもにとっての成長だとは分かっているけど、もう大変」。イヤイヤ期の子どもを持つ親からはこんな声がよく聞こえてきます。イヤイヤ期は、自我が育ち「こうしたい」という意思が明確になり、親の方向づけに異議を唱えられるようになったということ。考えたらすごいと思いませんか。ほんのこの間まで赤ちゃんだった子が自己主張しているのです。大切に育むべき「自我」の表れです。「イヤ」という気持ちを「イヤ」と親に伝えることができることはとても大事なことです。親が「なんでそんなことを言うの」と問い詰めたところで、なぜなのかは子どもにも分からないのです。

大切なことは、子どもの、「××はイヤ」「○○したい」という思いはきちんと受け止めて、「気持ちは分かったよ」というメッセージを伝えることです。それでも、子どもの言いなりになるわけではありません。やってはいけないことは「ダメ」なのです。でも、「これはダメ」だけでなく、「なぜダメなのか。それはこうするといいいよ」と言葉で

伝えていきましょう。そして、年齢や状況にあった適切な振る舞いを伝えていくことが、子どもの自我を育てることもつながります。同時に、危険なこと、やってはいけないことも伝えていきたいものです。それでも、子どもの「イヤイヤ」が続くと我慢できないという大人もいます。2歳児は時間概念や空間概念を認識する力が未熟で、まだ「待つ」ができません。脳の前頭前野が未発達なため感情抑制力が弱く、目先の欲求を我慢できないということも実証されています。だとすると、親がちょっと我慢して待つってあげることも大事なかなと思います。



めぐみ保育園 園長

弘田 恵子

めぐみ保育園園長。22歳で助産師になり、4年間高知の総合病院産婦人科でさまざまな出産に立ち会う。26歳から大阪府立母子保健総合医療センターのNICUで、6年間未熟児や障害のある赤ちゃんのケアをし、その後堺市で母乳育児相談室を仲間と開設。18年前から高知市内の保育園で、日々子どもたちと楽しく暮らす。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。

